

派遣留学生帰国報告書

* 復学後の情報を入力してください

記入日	2015年9月
所属学部	工学部大学院
所属学科・専攻	デザイン科学専攻

1. 留学先について

留学先大学名	Aalto University		
留学先所属学部等	Department of design, Product and Spacial design course, Applied Art		
留学期間	出発日 8月21日	入学日 8月25日	修了日 6月30日 帰国日 7月30日
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート <input type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他()		
	通学時間	一時間弱	<input type="checkbox"/> On campus
	通学方法	バス	
	居室スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> () 人部屋 <input type="checkbox"/> その他()	
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室 <input checked="" type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> リビング <input type="checkbox"/> その他()	
食事	自炊 55 %	学食 35 %	外食 5 % その他 5 % () * %で記入してください
保険	海外旅行保険(名称)	三井住友海上海外旅行保険	
	大学指定の保険(名称)		
	その他		
渡航ルート	ex.) 成田⇔シカゴ(飛行機)⇔ウィスコンシン(電車) 成田 ⇔ ヴァンター(飛行機) ⇔ ヘルシンキ(バス)		

2. 留学にかかった費用について

総費用	1554800	円	* おおよそでかまいません。				
出処							
自費	<input type="checkbox"/> 貯金	円	<input checked="" type="checkbox"/> アルバイト	25000	円	<input type="checkbox"/> その他	円
援助	<input checked="" type="checkbox"/> 両親	752300	円	<input type="checkbox"/> 家族・親戚	円	<input type="checkbox"/> その他	円
奨学金	<input checked="" type="checkbox"/> JASSO	800000	円	<input type="checkbox"/> その他名称()	円		
その他	<input type="checkbox"/> 千葉大学助成金	円	<input type="checkbox"/> その他()	円			

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/> 現金	100000	円	<input type="checkbox"/> その他()	円
留学中	<input checked="" type="checkbox"/> 海外送金	<input type="checkbox"/> キャッシング	<input type="checkbox"/> その他()		

2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	0円
住居にかかった費用	約586000円、銀行に講座を作って送金
その他	約968800円、現金／クレジットカードで

2-3. 内訳 *外貨で払ったものについては日本円に換算したおおよその金額も記入してください

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	ユーロ	1340	177470	円
海外旅行保険	ユーロ	1480	196070	円
OSSMA	ユーロ	220	29160	円
査証・在留許可証	ユーロ	330	45000	円
住居	ユーロ	44150	586000	円
食費	ユーロ	2750	365000	円
通学に要する交通費	ユーロ	500	66500	円
教科書、教材費	ユーロ	200	26000	円
その他大学に支払った経費	ユーロ	0	0	円
光熱費	ユーロ	住居費に込み		円
その他 (携帯代)	ユーロ	400	53000	円
その他 (スポーツジムなど)	ユーロ	80	10600	円
その他 ()				円
その他 ()				円

3. 学業面 *必ず、後日、留学先の成績証明書と単位の互換認定が反映された千葉大学成績証明書を提出すること。

3-1. 授業科目の選択、登録方法 *登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

WebOodiという履修登録専用のウェブサイトを利用して、授業の履修、単位の処理等を行う。コース間の授業選択は比較的自由。一つのピリオドに演習スタイルの授業が一つ開講されるので、生徒はそれを受講しつつ、並行して開講される座学の講義を受けるスタイルが多い。臨時で開講される集中講義なども多く、人気の授業は受講に際してポートフォリオで選抜を行うものがほとんどである。

3-2. 授業内容、方法に関して

ほとんどの授業が、学外の企業や団体などとコラボして行われる実践的なものとなっている。それを補足する形で、週に数回の講義、ゲストレクチャー、チュータリングやプレゼンテーションなどの進捗確認が行われる。グループワークの場合、各自が授業時間以外に集まってミーティングをすることも多い。授業の明確な時間規定は無く、曜日や時間帯が変わるものも多い。

3-3. 語学力について

マスターコースの授業は基本的に英語で行われる。学生の半数以上が留学生であり、殆どのフィンランド人が非常に流暢に英語を話せるため、フィンランド語は話せなくても大丈夫である。私の在籍していた Applied Art コースでは手を動かして制作を行う授業が多く、実物を見せてコミュニケーションすることができるため、精度の高い英語力が必要とされる場面はあまりなかった。グループワークやディスカッションを行う授業も受講したが、英語力よりもむしろ推測する力や意志を伝えようとする気持ちがコミュニケーションにおいて大切であると感じた。

3-4. 図書館など学内施設について

物作りをするための環境設備は非常に充実している。木、鉄、ガラス、セラミック、プラスチックなどを加工できる工房が土日以外ほぼ毎日空いており、どの学部の生徒でも利用講習を受ければ使用が可能である。また各工房にはそれぞれ専属のマスターがおり、制作に関して生徒の相談に乗ってくれ、例え利用講習を受講していなくても、時間的に余裕があれば制作を代行してくれる。3Dプリンターやレーザーカッティングマシン、真空成型機など特殊な設備もプロジェクト次第で利用が可能である。またそれぞれの工房には材料庫があり、その素材は学校のプロジェクトに関わる物であれば無償で使うことができる。この環境設備の豊かさは本当に素晴らしいと思う。図書館などは逆にそこまで充実してはいない。ヘルシンキ大学の方が文献調査には効率的であると感じた。

3-5. その他

フィンランドの講評方法の違いに戸惑った。否定的な意見がほとんど見られず、良いところを見つけ延ばしていこうとする姿勢が顕著であるように感じる。基本、教授陣は学生のアイデアに対して「いいね！」と言ってくれるので、逆に自分を客観的に批評する力を磨く必要があると感じた。

マスターコースの学生は一回社会人を経験した後、自身のキャリアアップのために大学に入り直している人がほとんどであった(事実同じ学部で私が一番年下であった)。そのため人種や年齢のバリエーションも多岐にわたり、皆意識が総じて高いように感じた。「学び」の捉え方、実践の仕方が日本よりもはるかに柔軟で、大学院は学生に社会とコネクトする機会を提供する場としての役割が強いように感じた。ここでは学校の主役はあくまでも学生であり、各自がそれぞれのキャリアの為に戦略的に学びに来ている、その違いを肌で感じることは非常に刺激になった。

4. 生活面 *気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。

4-1. 住居について

学生は学校が紹介する学生用アパートメントやヘルシンキの学生向けアパート斡旋業者が紹介する住居に住むことができる。しかし数が充分でないことや手続きのトラブル等の理由で全ての学生が入居出来るわけではない。また入れたとしても、リノベーション等で立ち退きを命じられることもある(実際私が最初に入った学生用アパートメントは4月の終わりから改修工事が始まってしまい、別の家へ引っ越ししなければならなかった。)料金はヘルシンキで一般に部屋を借りるよりも比較的安い。形態はキッチン、シャワー、トイレが共有で、一人一人に鍵付きの個室が与えられるフラットスタイルがほとんどである。フラットは3~6人ほどで男女が共同で住む場合もある。私はありがたいことにフラットメイトに恵まれたが、住人同士でのトラブルも多いようだ。これに関しては全く運であるのでなんとも言えないが、いろんな意味でたくましくなるだろう。また大学にはどうしても家が見つからない学生の為のEmergency houseがあり、2週間程度滞在することができる。

日本に比べて外食は非常に高い為、自炊することが多くなる。スーパーマーケットで売られている食材はそこまで高価では無く、市内のアジアンマーケットに行けば大体の日本食材は手に入る。友人と集まる場合でも、誰かの家に食べ物を持ち寄って集まることが多い。また学食は1食2.6ユーロと経済的だったのでよく利用した。フィンランドの食全般に言えるが、大味で味気ないものがほとんどであり、美味しい食事はあまり期待しないほうがいいかもしれない。サルニアッキ(塩化アンモニウムと甘草を用いた黒い菓子)、ムスタマッカラ(血を穀物に混ぜ込んで腸詰にした黒いブラッドソーセージ)、マンミ(ライ麦の粉を甘く炊いた黒いデザート)がフィンランドの3大料理であり、皆色が漆黒で、味がなかなか刺激的である。チョコレートは驚くほど美味しい。芋もとても美味しい。サーモンも大変美味である。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

SIMフリーの携帯を現地で調達した。最も安いものは55ユーロと安価で、そこにプリペイドのSIMを挿入してチャージしながら使うスタイルであった。携帯の購入、使用、支払いに関しては非常にスムーズで簡単に行うことができ、ストレスはあまり感じなかった。反対に家のネット回線を繋ぐのには大変苦労した。LAMケーブルで有線接続をしてもネットに繋がらず、ケーブルを交換したり、PCの設定を変更したりするなどしたが問題が解決しないため、ネット会社やセキュリティ会社などに電話をかけて原因を探った。しかし長時間トライまわしにされた挙句、最終的には解決されなかった為、半年ほどはフラットの友人の無線LANを借りて不安定なネット環境で生活することになった。その後無線ルーターを入手し、なぜかネットに繋がるようになり一応ネット環境問題は解決したのだが、未だに何が問題だったのか分からない。特に無線LANを借りていたフラットメイトが冬休みに帰国してしまった時などは、完全にネットが使えなくなり、逆に興味深い体験ができた。

4-4. 服装について

一年を通して日本よりも寒く乾燥している。夏でも日本とはマイナス10度くらいの温度差であり、冬など氷点下25度くらいになる。半ズボンなどを持って行ったが結局着る機会は無かった。UFFという古着屋がヘルシンキには多くあり、そこで冬物のコートや服などを購入することが多かった。この店は非常に安価なため多くの人々が日常的に利用する。女性物は非常に品数が豊富だが男性物が少ないのが難点である。靴は冬用のブーツを激安スーパーで購入した。部屋の中は暖房設備が行き届き、非常に暖かい。

4-5. 健康管理について

うがい、手洗いを欠かさなかった。夏のみならず冬は特に空気が非常に乾燥するため、保湿に気を配った。また季節を通して日照時間が大きく変化するため、日常生活に支障が出た。例えば夏は夜11時からいまで日が沈まず、朝は5時にはもう日が昇っている。また冬は昼の10時に日が昇り、15時には日が沈む。そのため、体がこの劇的な環境の変化に順応できず、夏は睡眠不足に、冬は憂鬱な気分になることもあった。驚くほど自然環境が極端であり、それに影響されて面白く生活をする事ができたように思う。

4-6. 保険、OSSMAの利用 * 利用実績等をご記入ください

幸い保険を適応する機会に陥ることは無かった。OSSMAに関しても同様である。

4-7. 課外活動について

お世話になった大学の先生に誘われ、その先生の家族と一緒にスキーやバーベキューなどに参加した。フィンランド人の普段の家庭や生活の仕方を直に知ることの出来たいい機会であった。また学部の友人たちと大学で冬に行われる学生主催のクリスマスセールに出展したり、夏至祭やNew years dayのフェスティバル、サウナなどに行く機会も多くあり、留学生間やフィンランド人学生たちと親睦を深めることができた。仲良くなったフィンランド人の友人に誘われ、彼女のサマーコテージを訪ねることができたのは非常に得難い体験であった。湖で泳いだり、ボートで向こう岸の島に渡って散策したり、フィンランド料理をご馳走になったりと素晴らしい体験ができた。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

アールト大学やヘルシンキ大学の日本文化に興味のある有志の学生による、NIPPORIというサークルのパーティーに何度か参加した。そこで知り合ったフィンランド人学生と仲良くなり、1週間に一回程度、お互いの言語や文化の学び合う会を3月くらいから継続して行っていた。彼らとヘルシンキの街をサイクリングしたり、映画を観に行くこともあった。彼らは日本語を専攻している学生であり、今まで私が考えたこともないような難しい質問をされることも多かった。日本語や日本文化を客観的に見直し、それを英語で説明するという良いトレーニングになったように思う。

4-9. 日本から持参してよかったもの

鉛筆、ノート、コピックなどの筆記用具、文房具類。現地のものは物価が高く、質があまり良くないため。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

半ズボン、ツナギ、作業靴、作業手袋、安全メガネ、

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

フィンランド人は日本人と似てシャイで大人しいといわれる。そのため、大きな違和感を感じることなく生活することが出来た。また学部の友人は全員が年齢層が高く、落ち着いていて穏やかであったように思う。

習慣、マナーに関して気になった点は、例えばフィンランドでは飲料缶は全てデポジットになっており、スーパーなどに持っていくと現金と交換することができる。そのため、飲み終わった感などをゴミ箱に捨てるよりは道端に捨てるほうが良いといわれたのは衝撃であった。結局、ホームレスの人々がそれらを回収して行くため、街は結果的に綺麗に保たれるのである。このシステムデザインには驚いた。

またフラットメイトの一人がかなり厳格なムスリムであり、主に食に関して注意しなければならないこともあった。具体的にはラマダーンの時期に食事を一緒にしようと誘って断られたり、酒を飲みに行こうと誘って断られたり、ハラールではない自炊の肉料理を勧めて断られたりなどである。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行 * 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

ex) 【イギリス・ロンドン&フランス・パリ(観光)】〇〇年〇月(5日間)、約5万円

・ロヴァニエミ(フィンランド)

期間: 2014年12月17日~19日

交通手段: 飛行機(FinnAir)

費用: 約180ユーロ(25000円程度)

ロッジを借りて宿泊。サンタ村、犬ぞりなどフィンランド伝統の活動を経験することができた。

・タリン(エストニア)

期間: 2015年2月7日(日帰り)

交通手段: フェリー

費用: 約100ユーロ(13500円程度)

バルト海を挟んで対岸の国、エストニアへ日帰り旅行。

・ミラノ(イタリア)

期間: 2015年4月17日~21日

交通手段: 飛行機(FinnAir)

費用: 約450ユーロ(60000円程度)

ミラノサローネを見学。ホステル→現地のポリミ大学に通っている千葉大の交換留学生の家に泊めてもらう。

・北欧諸国(エストニア→リガ→ストックホルム→オーランド諸島→トゥルク)

期間: 2015年6月21日~29日

交通手段: フェリー、バス、飛行機(Norwegian Air)

費用: 約700ユーロ(95000円程度)

フラットメイトと一緒に北欧諸国を旅行した。フィンランドという国の立ち位置がより立体的に見えるようになった。

・パリ(フランス)、バルセロナ(スペイン)

期間: 2015年7月18日~24日

交通手段: 飛行機(Norwegian Air)

費用: 約700ユーロ(95000円程度)

文化と風土の関係性を肌で感じる事ができた、非常に密度の濃い旅であった。

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

筋トレと散歩を気分転換によく行った。フィンランドは自然がとても豊かなため、少し歩くだけで美しい森の中を散策することができる。四季の変化を感じながら森や湖のそばを歩くのは非常に気持ちよく、リフレッシュできる体験であった。

5. 報告 * 5-1~4は、年度末発行の冊子「海外派遣留学報告」の原稿となります。

5-2. 留学先大学について(150~200文字)

ヘルシンキ工科大学(1849年創立)、ヘルシンキ経済大学(1904年創立)、ヘルシンキ美術大学(1871年創立)が2010年に統合された総合大学であり、科学、ビジネス、美術の各学部が密接に連携する学際的な研究を積極的に行っている。メインのキャンパスは自然豊かなオタニエミに位置し、多くの学生が勉学に励んでいる。企業と大学の連携が密であり、学生のアイデアを積極的に社会に取り入れていこうとする姿勢が非常に魅力的であった。

5-3. 留学中の様子(450~500文字)

アアルト大学の非常に豊かな設備を目一杯に使わせてもらい、ここでしか出来ないような作品作りを突き詰めることができた。あるコースで制作した作品は学外でのエキシビションに選抜され、フィンランドの家具製作会社主催の展示会に出展することができた。一品物のプロダクトを製作し、展示し、売りに出すまでの一連の流れをそのまま現場で学ぶことができたのは本当に得難い体験であった。実際に手を動かしてデザインを考えていくことがどのようなことか肌で感じるとともに、千葉大学では出来なかったであろうデザインワークに触れ、自分自身の表現の幅が大きく広がったように思う。また学部の友人たちと学生が主催するクリスマスセールに出店したり、夏至祭やNew years dayのフェスティバル、サウナ、クラブなどに行くこともあった。仲良くなったフィンランド人の友人に誘われ、彼女のサマーコテージを訪ねたのは忘れることのできない体験であった。湖で泳いだり、ボートで向こう岸の島に渡って散歩したり、フィンランド料理をご馳走になったりと、フィンランドに来る前にやりたかったことが、ほとんどかなったように感じる。

5-4. 留学希望者へのアドバイス(300~400文字)

しっかりした「個」を確立しなければならない、するように努力すべきだと感じた。それは、私が良いから良いんです！と言い切る自信と覚悟を持つことでもある。(他の留学生ももしかしたら感じている人がいるかもしれないが)西欧の社会は個が確立していない人に対して冷淡である。所属、出身国、言語などを通して生温い繋がりを求めがちである人が(特に私が)、「確立した個」を人間形成の最終的な目標として掲げる西洋諸国で生きてゆくのは、想像していた以上に簡単ではなかった。「私」と「あなた」が違う存在であるという事実を、まずしっかり前提として捉え、その上でどのように相互の交流を築いてゆくか、働きかけてゆくかが本当の意味でのコミュニケーションであり、そこで対等な関係性を結ぶ力が本当のコミュニケーション能力と言えるのだろう。その際に最も大切なのは「敬意」なのだと思う。あなたのことを尊ぶということ、それはつまり他者の存在を認め、その意義を見つめ続けようとする意志とも言える。

5-5. 留学を終えて * 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がたった部分、不安に思うことなどなんでも。

私の留学先はフィンランドだったため、自然が持つ影響力を今までに体感したことがないほど強烈に体感することができた。その土地の風土とその中で人間が営む生活は切り離せないほど密接に関わりあっていることを、圧倒的なリアリティで体感できたことは非常に面白い体験であった。日本から遠く離れ全く別の土地で生活することで、日本という国、またその文化について嫌が応にも再考させられ、人が生きるということの多様性を改めて考えさせられるとともに、日本ならではの魅力、価値、今後の展望について考察する良い機会となった。留学期間を通して本当に様々な人々に出会うことができた。とりわけ私の留学先の大学は全ての留学生がマスターコースに配属されるため、本当に様々な人が集まっており、生き方は決して一つだけではないのだと勇気付けられた。私たちは望めば生きる国を変えることもできるのだ。もちろんそれができるだけの能力があるかが次の問題になってくるが、それでもこの留学を通して今後の生き方を考える上で非常に視野が開けたように感じる。また英語は意志を伝えるツールなのだということをはっきりと思い知らされ、コミュニケーションに対する度胸がたった。留学して良かったと心から思う。

お疲れ様でした